

2021年 技術士全国大会(創立70周年記念)建設部会意見交換会 議事録

- 日時: 2021年11月26日(金) 10:00~12:30
- 場所: 日本教育会館 喜山倶楽部(飛鳥)
- 出席者: 建設部会幹事会代表者、地域本部(建設部門)代表者(会員限定公開(WEB配信併用))
- 開催目的: 建設部会と地域本部(建設部門担当)における活動内容と課題の共有、および建設部会への要望について意見交換する。
- 配布資料: 資料1 建設部会の運営方針
資料2 建設部会活動報告/建設部会のCPD活動
資料3 地域本部活動報告(北海道、東北、北陸、中部、近畿、中国、四国、九州)
資料4 建設部会に対する「提案および提言」等
資料5 技術士制度検討委員会報告
資料6 技術士資格活用委員会活動報告

1. 開会挨拶【増野部会長】

- 前は2年前であり、制度検討委員会においては、この2年間に1つの方向性を示している。ご意見を頂きたい。
- 技術士CPDもデジタルコンテンツが増え、WEB講演会が中心となっている。こちらについてもご意見を頂きたい。
- 本部としては、本日の意見を反映し、全国の地域本部との連携を拡大していきたい。積極的な意見交換をお願いしたい。

2. 会長挨拶【寺井日本技術士会会長】

- 2年ぶりの開催となる。地域本部との連携を強化していきたい。活発な意見交換をお願いしたい。
- 日本技術士会には、公益法人としての適切なガバナンスが重要であり、それにより地域本部の活動が制約される面も散見されている。組織改革委員会を立ち上げたので、今後議論を深めていきたい。
- 新たな技術士CPD制度を構築した。本来のCPDの目的(技術力と人格の向上)を意識して活用して欲しい。

3. 建設部会運営方針【増野部会長】

- 資料1の説明。
- 最大勢力を誇る建設部会として、技術士の地位向上に向け最大限の支援を実施し、協会活動の活性化を図る。
- 新たなCPD制度の構築に協力し、運用に寄与する。
- CPDプログラムの充実を図り、資質向上に寄与する。
- 全国の地域本部・県支部との連携し、上記施策を推進する。

- 建設部会を中心とした大きな波を起こしたい。ご協力をお願いしたい。

4. 建設部会活動報告【松岡幹事長／榎本研修委員長】

- 資料2の説明。
- ここ10年で正会員数の伸び悩みが顕著になっており、会員拡大が課題である。
- 建設部会研修委員会としては、積極的に技術者倫理に関わる研修も企画していきたい。

5. 地域本部活動報告及び質疑応答

(1) 北海道本部【長井幹事】

- 資料3&4の説明
- 建設部門の技術士登録者に占める正会員の割合は28%で全国13%より高い。
- あえて建設に偏らないCPD活動を心がけている。札幌においては多方面のCPD活動を実施しているが、道内他地域は建設系のCPDが多くなる。
- 要望として、CPD講演のWEB配信は、現状、規則により会員に限定されている。会員限定枠にこだわらない方が、部会として全国的な会員拡大につながるのではと考えている。

(2) 東北本部【加納幹事】

- 資料3&4の説明
- 現在、コロナ禍の影響で活動が下火となっている。活動方針も検討中であり、できるだけ早く決定したい。
- 要望として、コロナ禍により、会議、研修、現場視察等の実施方法が変わってきている。オンラインの活用等について議論をお願いしたい。今後の会議の効率化、信頼性向上のため、統括本部、他地域本部の現状や成果を共有して頂きたい。

(3) 北陸本部【田邊建設部会担当】

- 資料3&4の説明
- 北陸本部には建設部会は無く、各委員会において活動している。
- 要望として、地理的制約のある地域本部ゆえ、CPD講習会のWEB配信数を増やして頂きたい。かつ受講者の制限（現状200名）を拡大して頂きたい。
- 加えてCPD講習会のより一層のコンテンツの充実と、可能であれば無料の開催も企画頂きたい。

(4) 中部本部【牧野部会長】

- 資料3&4の説明
- 中部本部、愛知県支部と連携し、地域の防災活動と土業連携を推進している。
- 講演会をWEB・会場のハイブリット配信している。WEB配信を利用し情報を産官学まで発信している。
- 要望として、情報の発信を技術士会に留めることなく広く発信する必要があると考えてい

る。ネットワークを拡げ、産官学連携を進めるため、各学会や各学校との連携窓口を作っ
て欲しい。

(5) 近畿本部【森幹事長】

- 資料 3&4 の説明
- WEB 会議が主流となっており、どこにいても参加できるメリットがある。
- 要望として、建設 DX、ICT や SDGs 等に関わる情報提供を頂きたい。

(6) 中国本部【浅間部会長】

- 資料 3&4 の説明
- CPD 活動を本部の HP に掲載したところ、全国から参加者があり参加者数も増加した。WEB 講演会も参加者が増加しており手ごたえを感じている。建設部会以外の人にも参加してもらえる。
- WEB 講演会は、興味のあるコンテンツの CPD 活動を展開することで規模を拡大でき、かつアンケートも WEB ツールにより簡単に実施できる。
- 要望として、CPD 機会創出のため、本部講演会の WEB 配信を希望する。日程やテーマの早期情報提供や聴講費用の無料化等もお願いしたい。
- 技術士会会員の増員のためには、技術士会の魅力向上が必要であり、本部・地域本部の取組みの共有や意見交換の継続を希望する。

(7) 四国本部【谷脇幹事】

- 資料 3&4 の説明
- 四国本部には建設部会は無く委員会方式で活動している。
- 要望として、建設部会創設に動く時期に来ていると感じており、その過程において統括本部建設部会や各地方本部からの助言、支援、情報提供をお願いしたい。

(8) 九州本部【岡田部会長】

- 資料 3&4 の説明
- 要望として地方在住の技術士に配慮した WEB 講習会等の充実を希望する。
- 技術士の認知度向上、活用促進に向け、他団体との連携・情報共有の強化が望ましい。
- 技術士会への加入促進のため、魅力向上への取組みが必要と考える。さらに青年技術士や女性技術士の活動支援や、各地域本部間の連携強化への取組み（交流会創設等）も必要である。

(9) 意見交換

- 北海道本部や北陸本部の正会員登録率が高いのは、何らか特別な活動をしているのか？
- 北海道本部では、独自に会員・非会員に関わらずメルマガ会員を募集し情報を発信している。また合格者祝賀会にて直接勧誘もしている。青年技術士への積極的な勧誘が効果的と

考えている。さらには技術士メーリングリストを作成し、会員・非会員に関わらず意見交換等の情報発信を実施している。魅力的な委員会活動等が効果的と考える。(北海道本部)

- 北陸本部では、合格祝賀会を開催し勧誘している他、支部単位でも開催している。しかし、より活性化が必要と感じており検討を始めている。(北陸本部)
- 北海道本部の要望では WEB 講演会の参加枠を広げてほしいということだが、北海道では非会員への情報発信も実施しているのか？
- 以前は、会員・非会員を問わず情報発信をしていたが、新たな規則により現在は出来なくなった。(北海道本部)
- 現状、著作権の問題もあり会員に限るとしている。改善して欲しいという声もある一方、入会のメリットにもなる。(統括本部)
- 会員・非会員を問わず参加してもらうことで、非会員の情報を収集することができ、勧誘の取っ掛かりを得ることができる。できれば制限を緩和して欲しい。(北海道本部)
- 東北本部も北海道本部と同意見である。他の部会は無料かつ会員・非会員を問わず研修等を開催している。著作権等の扱いが難しいのは判るが、土木学会は細かいルールを決めて対応している。参考としてはいかがか？(東北本部)

6. 部会と地域との連携についての意見交換

(1) CPD の WEB 配信について

- 制度検討委員会において全国で説明しているが、事務局としては会員の権利を守ることを考え制約を設けている面がある。しかし、すべての技術士の資質向上は技術士会の責務でもあり、何らかの対策が必要と考えている。会員・非会員を問わず情報発信している地域本部もあり、是非、地方本部からの声を届けてほしい。(中川参与)
- 会員・非会員の制限は守秘義務に関わる点もある。講演者の話す内容によっては外部に出せないこともあり得る。(長崎理事)
- 修習技術者に対する催しの場合、正会員が少ないため会員限定では開催が難しい場合もある。修習技術者の場合は非会員も対象とし、できれば無料で参加させたい。(中部本部)
- コンピテンシーを育てるということでは、会員・非会員は関係ないと思う。建設業全体のレベルアップが望ましい。(近畿本部)
- 全てを有料のコンテンツとする必要は無く、ケースバイケースで考えればよいと思う。(松岡幹事長)
- 会場で集まって実施する場合は、非会員でも参加可能で、守秘義務の問題もクリアできる。(長崎理事)
- 土木学会は、参加申込み時にあらかじめコンプライアンスに関する注意事項を確認してもらっているため、参考になると思われる。(東北本部)
- 申込時に著作権や守秘義務に関わる注意事項を確認してもらい、非会員の方々にも窓を開いた方がよい。地域本部の運営には色々と制約があり、動きやすいようにしていただければありがたい。(中国本部)

(2) 地域連携の強化方策

- 地域本部からの連携強化の方策にかかるアイデアをお聞きしたい。(松岡幹事長)
- 現場見学会やWEB講演会については、全国を対象に統括本部のHPに掲載することにより参加者が増えている。全国に対して情報を発信し共有することにより活性化される。(四国本部)
- コロナ禍であり、色々と大変な中、作業量が増加したりしないか？(松岡幹事長)
- 早めに対応すれば可能と考える。(四国本部)
- 今年度はWEBにより講演会を実施することができた。統括本部の新システムに掲載することができ、多数の方に参加頂けたが、開催時に最後まで特定できない参加者がいた。セキュリティには留意する必要がある。(中部本部)
- 技術士会全体でみれば、建設部会の人数が多く、会費の支払い額も大きいにもかかわらず、建設部会の意見が反映されにくい面もある。今後、常設委員会のメンバーを増員する検討をしていく。各地域本部の建設部会からも是非ご参加いただきたい。(長崎理事)
- 九州本部から交流会の創設の要望があったが、何らかイメージはお持ちか？(松岡幹事長)
- 現状、交流の場は意見交換会ぐらいしかなく、全国大会以外にも場を設けてほしい。本部と地域、地域と地域の両方で実現できるとよい。横の繋がりができると活性化につながる。(九州本部)

(3) その他

- 北陸本部は、国交省北陸地方整備局との意見交換会を実施している。建設部会として国土交通省との意見交換は積極的に実施して欲しい。統括本部でイニシアティブをとって地方にも展開して欲しい。(北陸本部)
- 前向きに進めていきたい。以前は実施していた。(松岡幹事長)
- 技術士は関連資格の最上級資格である。国土交通省にしっかりとアプローチしたい。(長崎理事)
- 建設コンサルタント協会に新しい資格を創設する動きがあると聞いている。総合技術監理に近いものらしい。情報をお持ちか？(北海道本部)
- 話には聞いているが正確な情報は持っていない。(統括本部)

7. 技術士制度検討委員会報告【中川参与】

- 資料5の説明。
- まもなく全国での説明会が終了する。会員だけでなく非会員の方々にも聞いていただけた。
- 全国を一巡した後は、ビデオを録画してHP上に掲載し、それを見ていただく予定。
- いかにして会員、非会員の方々に制度のこと知っていただいて、登録していただくことが大切である。地域それぞれで方法を考えていただき、広げてほしい。
- 来年5月の文科省の委員会で、会長は5桁を報告したいとのこと(会員15,000人)。
- 人数を増やすことが目的ではなく、活用してもらうことにより、これだけの母数の方々が研さんを積んでいることを示し、国土交通省などに活用してもらいたいと考えている。

8. 技術士資格活用委員会報告【長崎理事】

- 資料6の説明。
- 産業界で技術士の活用が進んでいない状況にあり、アピールしていきたいが、ハードルが高い状況である。
- 資格取得に技術士を加えてもらうよう働きかけているが、それには各省とも省令の改正が必要で、技術士を認めることで受験者数がどれだけ増えるか等示していく必要がある。
- APEC エンジニアなどの活用が日本で進んでいない中で、いかに技術士を海外で活用してもらうか。中小企業の海外進出において技術士による支援を検討している。
- 新たな CPD システムの PR で国土交通省に訪問する予定である。(中川参与)

9. 閉会挨拶【秋吉副部長】

- 本日の意見交換のテーマは2つあり、地域の活動の活性化、地域との連携の強化であった。その意味では、本日は建設的な意見を頂戴できた。
- 加えて、オンライン、Web の活用が重要となってきたと認識した。地域の距離を縮める、サービスを向上させるためにこれをどのように活用していくかが議論になった。
- CPD について議論になったことは、コンテンツ、対象者、料金、意見集約であった。
- 会員を増やすため、メルマガや祝賀会を活用されている話も伺えた。
- 本日はいただいた意見を今後の活動に活かしていきたい。

以上



寺井会長挨拶



建設部会活動報告（松岡幹事長）



意見交換会会場の様子（オンライン併用）



閉会挨拶（秋吉副部長）